



「市民後見全国フォーラム」を盛大に開催しました！



平成28年2月6日フォーラムの様子

平成28年2月6日に「市民後見ひろば」と東京大学教育学研究科牧野研究室、一般社団法人レジリエンス教育研究所が共催にて「市民後見全国フォーラム」を580名(ボランティア含む)の方々にご参加いただき、開催することができました。

フォーラムは、まずパネルディスカッションから始まり、牧野篤教授(東京大学教育学部)のコーディネートにより、「その必要性が叫ばれているのに『なぜ、成年後見は広がらない』のか」をテーマに、自治体や社会福祉協議会、NPOをお招きし、成年後見をあらゆる地域に広げていく糸口を探りました。

後半は、朝田隆 東京医科歯科大学特任教授(メモリークリニックお茶の水院長)をお招きし、「認知症を『自分のこと』として捉えると、『人ごと』では済まない多様な問題が見えてくること」など、認知症予防と治療の最先端から、本人主体の後見のあり方についてお話し頂きました。

最後に、フォーラム開催に合わせて募集をいたしました「市民後見を広げるためのスローガン」の大賞、ノミネート作、計6点を発表し(右記、応募総数115点)、運営委員決起のかけ声のもと終了となりました。

本フォーラムの目的であった「市民後見をはじめとした、親族、専門職、当事者や法人後見などの利用促進を図ること」、「市民後見の社会化促進」に即した内容で、アンケートでも概ね良い感想をいただきました。

当日は、会場である安田講堂の開場が遅れるというトラブルもありましたが、ボランティアの皆さん、展示ブースに展示いただいた団体様、参加された皆様のご協力もあり、予定通りに開催できましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。また、「市民後見推奨リング」購入ご協力におきましても、併せて御礼申し上げます。

フォーラムについて現在のご報告

参加人数 580人

リング販売個数 100個

市民後見を広げるためのスローガン ノミネート作

大賞 寄り添えば 地域でつながる 人と人

あなたと歩む市民後見

ノミネート 市民が拓く 地域の後見

市民後見 知って安心 シルバーライフ

“市民後見”の力で地域社会に潤いを！

身上監護！市民じゃなくて誰がやる！！

市民後見普及促進の象徴としてのデザインを作成しました

成年後見の普及と広く社会に認知されることを願い、市民後見普及のロゴ(左)を作成いたしました。



市民後見全国フォーラムでも配布、販売いたしました市民後見普及リングにも、このロゴを印刷しています。

追加販売は、随時受け付けておりますので、ホームページ、メール等にてご連絡下さい。

市民後見普及マーク コンセプト

成年後見の普及と広く社会に認知されることを願い、2つのハートで表しています。

ハートは、守られ支えられている人々(①高齢者、障害を持つ人、②被後見人、被後見人の家族)、「法定後見」と「任意後見」、「専門職の後見」と「専門職外の後見」、さらには介護保険制度と成年後見制度が「車の両輪」であることをイメージし、右のハート(青)が「信頼できる人」「知的で冷静な人」「誠実な人」を、左のハート(ピンク)が「思いやり」や「幸せ」の象徴として、多くの人々に愛されることを期待しています。

3月12日(土)に、第2回ひろばの輪が開催されました。参加者22人(スタッフを含む)で、「なぜ広がらない、成年後見！」をテーマに話しました。次回は、5月の日曜日の開催を予定しています。

初めまして、森俊樹と申します。副代表と、交流事業であるひろばの輪を担当させていただきます。

ひろばの輪では参加した方が自由に安心して話し合える場を作りたいです。語り合うことで市民後見ひろば会員のつながりを持つことが出来たらと思っています。よろしくお祈りします。



運営委員紹介